

外骨関係家具修理完了

昭和初期の姿を職人の手で再現

昨年十月六日に搬出し、飛騨高山で解体修理中だった外骨書齋、丸テーブル、椅子三脚が三月三十一日に戻ってきました。修理というよりも復元と言った方が良いかもしれません。

書齋の扉や抽斗の取っ手などの金具は失われていた部分が多かったので、残った金具そっくり再現されていました。扉裏のカーテンもプリントを再現するためにフランス製の布を取り寄せて付けてくれました。

▲昭和初期の応接室の写真



▶書齋の搬入（中村充飛驒産業株式会社 東日本営業所所長）

書齋は昭和四年竣工当時と同じく大書庫の奥に搬入・据え付けられました。昭和初期の応接室で外骨が使っていたであろう椅子やテーブルも美しくよみがえり、玄關ホールで活用されています。

▲修復された丸テーブルと椅子



明治新聞雑誌文庫 ニュースレター

第二號
平成二十九年九月十五日（金）
編集・発行
東京大学大学院法政学政治学研究所
附属近代日本法政史料センター
明治新聞雑誌文庫
〒113-0033
東京都文京区本郷七-3-1
電話 〇三-五八四-1327
FAX 〇三-五八四-1022

年二回発行
URL
<http://www.meiji.j.u-tokyo.ac.jp/>
Mail
lmeiji@j.u-tokyo.ac.jp
Twitter
@UTokyo_LMeiji

H29 オープンキャンパス展示

八月二〜三日、東京大学オープンキャンパスに合わせて小展示を行いました。開設九〇年ということで、外骨関係資料、錦絵、新聞などのほか、ちりんちりん箱、新聞売り半被なども展示しました。



会場の応接室で展示を観る高校生たち

二日間で二五〇名ほどの見学があり、教科書等に掲載されている「憲法発布式之図」の実物などの資料を熱心に見入る皆さんから多くの質問、感想が寄せられました。

スタンフォード大学フーバー研究所のプロジェクトに協力

スタンフォード大学フーバー研究所の邦字新聞デジタル・コレクションは、ハワイや北米で発行された邦字新聞をオンラインで閲覧することができます。このコレクションに、当文庫所蔵資料四七タイトル、約五三〇〇カットを提供しました。現在アメリカでデジタル化作業が進められており、順次公開される予定です。
邦字新聞デジタル・コレクション
(日本語・英語)
<http://hojishinbun.hoover.org/>

雑誌、テレビへの撮影協力

別冊太陽『宮武外骨』（平凡社 二〇一七年四月発行）とMBSドキュメンタリー『映像17』「宮武外骨と安倍政治の権力の喰い方」（八月二十七日（日）関西地区放送）に撮影協力をしました。



書庫内の外骨書齋を撮影するカメラマン

明治文庫グッズ、発売中！

赤門の隣にある東京大学コミュニケーションセンター（UTCC）で四月七日に、明治新聞雑誌文庫雑貨シリーズ三点が発売されました。

◆インテリアうちわ

使わないときはインテリアとしても楽しめます。扇面は樹脂製で水濡れに強く、ダイカスト技術で成型された持ち手は、程よい重さです。錦絵の憲法発布式を祝う女性と尾崎行雄がロンドンから送った書簡の記事が、あなたに明治の風を送ります。

二七〇〇円（税込）



◆超撥水風呂敷

明治文庫初代事務主任宮武外骨が集めた所蔵新聞等の題字や蔵書印を配し、活字の大平原のようなデザインとしました。鞆に一枚入れておくと、サブバッグに、雨避けカバーにと役立ちます。旅行の際にも便利です。

三五〇〇円（税込）

◆蛇腹便箋レターセット

便箋にミシン目が入っているので、

中性紙保存箱に収納

三月二十七〜二十八日に中性紙保存箱二〇〇箱余の納品作業が行われました。少しでも良い状態で保存するために、古い箱から出した資料をクリーニングしてから保存箱に収納しました。今年度は六月に二百三十三箱を作製し、十一月頃に二百四十四箱作製する予定です。この保存箱はご寄附により作製することができました。寄附者の皆さまに深く御礼申し上げます。

▲資料収納前の保存箱

▲資料クリーニングの様子



UTCCのほか、東京KITTE内のIMTブティック、UTCCオンラインストアでも発売中です。なお明治文庫グッズの売り上げの一部は、所蔵資料の保存のために使われます。

九八〇円（税込）

学術資産等アーカイブズ事業によるデジタル化

「東京大学ビジョン2020」では「東京大学が保持する学術資産のアーカイブを構築し、その公開と活用を促進することで、学術の多様性を支える基盤を強化する」ことが主要な施策の一つとして位置付けられています。これを受けて今年度から始まった学術資産等アーカイブズ事業で、宮武外骨蒐集資料のデジタル化を行うことになりました。外骨の資料収集旅行の記録など対象資料のリスト作成を現在行っているところです。今年度末にデジタル化を終え、来年度前半に公開される予定です。

北野恒富展に出陳

明治から昭和前期にかけての浮世絵師、日本画家、北野恒富の回顧展が大阪、島根、千葉の巡回展として開催されています。大阪あべのハルカス美術館（会期終了）では、大阪初の大回顧展だったそうです。この展覧会に『大阪新報』を出陳しました。連載の新聞小説に恒富の挿絵があります。『大阪新報』の原紙は、大変貴重な資料であると担当の学芸員さんが話してくれました。

回顧展は、現在島根県立石見美術館で九月十八日まで開催されています。そのうち、千葉市美術館で十一月三日〜十二月十七日まで開催されます。

樋口一葉と錦絵展に出陳

樋口一葉生誕百四十五年記念企画展「樋口一葉と錦絵」歌川派の浮世絵師楊洲周延が描いた「別れ霜」挿絵と錦絵の世界（会期終了）に『東京絵入新聞付録「日本寫真間毎の月」』を出陳しました。

この資料に絵師・楊洲周延の横顔のシルエットがありました。担当の学芸員さんにより、楊洲周延はまったくと言っていいほど肖像画が残っておらず、非常にめずらしいとのことでした。

耐震改修工事について

現在、学内の建物耐震改修工事が進んでいます。史料編纂所と明治文庫の区画についても工事が予定され、平成三十一年夏ごろから着工となる見込みです。工事にあたっては、資料を退避させ、事務室も移転することになります。移転から再開準備までおよそ一年余りを休室することになります。 ※スケジュールは変更となる場合があります。詳細がわかり次第、ホームページ（<http://www.meiji-j-u-tokyo.ac.jp/index.html>）等でお知らせいたします。